



FAX COVER LETTER

財団法人

日本モンキーセンター

学芸員 赤見理恵

送信先 報道各位

送信枚数 本紙を含めて 5枚

送信日 2012年 10月 15日

動物慰霊祭(サル供養)について

真っ青に澄んだ秋空が心地よい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

さて、10月17日(水)に財団法人日本モンキーセンターは創設56周年を迎えます。毎年、創設記念日には、今まで日本モンキーセンターで亡くなったサルたちに感謝し冥福を祈る動物慰霊祭(通称、サル供養)を執り行っております。

今年は新たに27種75頭が加わり、6294頭を慰霊します。

動物慰霊祭には、園内の保安要員を交代しながら全職員が出席し、また今年生まれたサルの赤ちゃんも担当スタッフとともに参列いたします。一般のお客様にもご参列、ご焼香をしていただけますので、一人でも多くの方に冥福を祈っていただけるよう、ご案内いただければ幸いです。

動物慰霊祭 概要

日時：2012年10月17日(水) 12:30より40分ほど

(雨天決行・テントあり)

場所：ビジターセンター裏 動物慰霊碑(猿塚)前

進行：飼育主任 堀込亮意(50歳、勤続26年)

弔辞朗読：飼育技術員 佐藤百恵(27歳 勤続5年)

読経：犬山善光寺導師

参列者：日本モンキーセンター全スタッフ

シャマンの赤ちゃん

(ピーチ ♀ 6月22日生まれ)

※ピーチは母親の体調不良により人工哺育となりました。

フサオマキザルの赤ちゃん

(ジャンヌ♀ 4月26日生まれ)

※ジャンヌは不慮の事故により腕の一部を失い人工哺育となりました。

今は群れに復帰するために頑張っています。

一般のお客様

財団の歴史と医学研究

財団が創設された大きな目的に、霊長類の調査研究、保護、教育普及活動、それらの支援活動などがあり、文部省所轄の研究財団として活動を開始。同時に日本で唯一の登録博物館の動物園として責務を果たしてまいりました。

昭和30年代、日本で猛威を奮っていたポリオ(小児まひ)のワクチン製造やその安全性検定、今ではあたりまえの三点式ELRシートベルトの開発、白内障で視力を失

った方がもう一度視力を得ることができる眼内レンズの開発、人類を最も多く死に至らしめるマラリアの予防薬開発など WHO 世界保健機構をはじめ医学、薬学、人間工学などの多くの分野へサルを供給し研究支援活動を行ってまいりました。

医学用実験動物の供給は 2003 年以降、心臓移植の技術開発のための供給を最後に撤退しています。これは実験用動物を否定するものではなく、財団の方針であります。

今年亡くなったサルたち

この 1 年間で亡くなった 27 種 75 頭の中には、通常の寿命をはるかに上回る 28 歳まで生きたヤクニホンザルのウルシ（1983 年 5 月 19 日生まれ、2011 年 11 月 23 日死亡 28 歳）や、軽快な後ろ歩きをすることでマスコミをにぎわせたシャマンのマリ（1975 年 6 月 13 日生まれ、2011 年 11 月 12 日死亡 36 歳）が含まれます。マリは、今回参列するシャマンの赤ちゃん「ピーチ」のおばあちゃんにあたります。

お問い合わせ先

財団法人日本モンキーセンター

〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26

TEL : 0568-61-2327 FAX : 0568-62-6823 e-mail : info@j-monkey.jp

URL : <http://www.j-monkey.jp/>

本件担当：加藤章（園長）、高野智（主任学芸員）、江藤彩子（学芸員）、赤見理恵（学芸員）

シャマン(フクロテナガザル)



英名 Siamang
学名 *Symphalangus syndactylus*
CITES I
IUCN LR/nt

分布



スマトラ島およびマレー半島

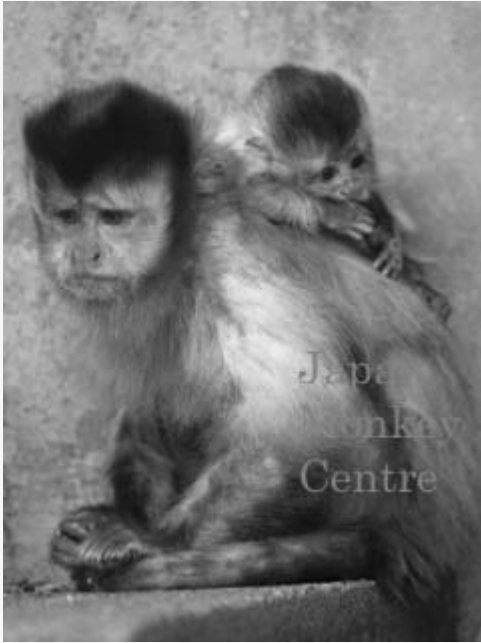
会える場所 モンキースクランブル(ビッググループ・エコドーム)

- テナガザル類では最大。体重約 10～15kg。
- 非常に長い腕をもち、ブラキエーション(腕渡り)を主要な移動様式とする。
- 葉や果実を主に食べる。
- オス・メスのペアとその子供からなる家族でなわばりをもつ。
- 短い叫び声が連続したグレートコールを発し、なわばりを主張する。
- のどに喉頭嚢(こうとうのう)と呼ばれる袋状の構造があり、これを大きくふくらませて声を響かせる。



シャマンのピーチ

フサオマキザル



英名 Tufted Capuchin

学名 *Cebus apella*

CITES II

IUCN LC

分布



南米大陸の北部から中央部の広い範囲

会える場所

南米館・屋外ケージ

- オマキザル類の中でもっとも広い分布域をもつ。
- 頭頂部の黒い房毛が立ち上がっているのが特徴。
- 尾は毛で覆われており、把握性があるもののクモザル亜科のサルのような尾紋はもたない。
- 複雄複雌の十数頭からなる群れをつくる。オスとメスは同数から、ややメスが多いくらい。
- 雑食性で、おもに果実や昆虫を食べる。その他、葉や花、種子、小動物なども食べる。
- オマキザル類は南米のサルの中でも知能が高いとされ、堅い木の実を木の幹に打ち付けて割る行動が観察される。また、ある集団では石を用いて木の実を割る行動も観察されている。
- アメリカでは介助ザルとしても活躍している。